

万引防止システムの普及、開発で「新活動宣言」

協会が総会開く

日本万引防止システム協会(略称J.E.A.S.・東京都新宿区、戸田秀雄会長)は6月2日、東京千穂交易)は6月2日、東京都千代田区内で平成28年度通常総会を開催した。

戸田会長は万引犯罪の現状について「米国の状況に似て、換金目的の悪質な組織犯罪へ移っている。高額窃盗事案が増えるなど、企業にとって深刻な事態を招く」と指摘した。「システムのさらなる普及促進と



戸田秀雄会長

もに、集団窃盗対策として効果的な防犯画像の利用法の確立が重要となる」と述べた。

同協会の「新活動宣言」が決議された。これは万引犯罪の複雑化・悪質化が目立つ中、新しい万引防止システム等の開発と運用支援に向けて関係者が結束力を高めるとともに、E.A.S.機器(万引防止機等)の導入による防犯環境作りやシステムを扱う従業員、警備員へのサポートも緊密化し、推定値4615億円といわれる全国の万引被害総額の減少を目標として打ち出す宣言で、今後、ホームページやパンフレット等に掲載

していく。

2つの記念講演

総会後に2つの記念講演が行われた。

東京都警備業協会・宮坂昇事務局長が「2020年の警備体制構築に向けての



講演する宮坂氏

施策・人材確保・システムの活用」と題して、東京五輪・パラリンピックに向けた東京警協の「五輪等警備業務準備委員会」の取り組みについて語った。

東京五輪招致委員会がIOCに示した「警備員1万4千人」に触れた上で、「警備員不足が続く中、東京警協が制作した警備員募集に

向けた映像が都内17か所のハローワークで上映を開始し、ユーチューブでも公開している。より多くの方々に、警備業に関心を持っていただきたい」と述べ、業界の人材確保に向けた取り組みを語った。

また、過去に少年グループが大量に万引したゲームソフトを大手ショップが買い取っていた問題に警視庁が対処した事例も説明した。

ヤフー株式会社コーポレート統括本部政策企画本部 ネットセキュリティ企画部・吉田奨部長は、インターネットの不正アクセスやオークション詐欺などの対策について解説。行政・捜査当局・事業者が連携して窃盗犯や盗品を売買する者に対処していく重要性を強調した。

(都築孝史)